





うさぎのうさぎのうさぎ  
 ひるに夜を  
 是を眠も  
 よむむいふ  
 まて体の付  
 業とあり  
 小ちか減る

女織  
 天竺  
 手業  
 草

式

哥  
 磨  
 子  
 筆





三度の  
休乃後業を  
今の時

次身小大にをり  
はましく穿たるを  
糸の竹茹す乃  
糸のようす業の  
糸を刻む業を  
いふなり



哥之庵





香<sup>ういこ</sup>墨<sup>すゐ</sup>度<sup>ど</sup>め<sup>め</sup>の

付

大眠之旨

にの侍

之云

出子  
 返付  
 出な  
 時を  
 用意  
 件なり





女織蚕糸業草

大眠記して  
後糸の糸と  
製衣する也

大眠記して後  
糸と令すまけりハ  
糸をゆ糸の糸と  
拵製するハ  
いと多かり  
いと多かり  
いと多かり  
作なり



哥  
二  
妹  
三  
筆



うへに  
きんちやくを作らぬ

もい子といふ

唐ごまこの類々

枇杷あじのおをなぐ

ひさりしる音をきいて

くさくさといふ

中を

きき

はき

はき

はき

はき

はき

はき

はき

はき

はき

はき



哥磨筆





玉織を  
七

族柳

よりお時飛の  
よれ玉とあやうで  
ふそくうり約  
嫁乃蝶小なり  
おれ牡丹をそ  
にこそ紙  
玉へ版こ子を  
産むあり  
これこそこそと  
いふ

哥磨筆





女織 天竺紫草

八

蚕糸を吐く  
蝶にうて  
飛鳥

うしを  
蚕糸と  
うて

哥麿筆





生蘭と塩小

浮年あり

大さな土葬の  
肉底は竹の

筆を入

其上

柩の

系

又

子

前上

藏

卷

何

三

陰

初め

卷五

卷之

廿五

ik

七日

卷一

系

2

哥磨筆





†

扶

分

すむより  
筑波より原を

細糸の

色正

三

乃系

七

六

綜

312

とと

74

題

形

中何  
之

卷八

把

527

哥磨筆





1. The first part of the book is devoted to a general  
introduction to the subject of the book, and to a  
discussion of the various methods which have been  
employed for the purpose of determining the  
value of the various factors which enter into  
the calculation of the value of the book.



女織姫牛業草

十一

愛乃神を愛ふ

朝遇実智垣山

姫小遊

推産愛を

産此神の

紀愛と

兼せを

是り故小

日本にて

雅美矣

愛乃神

愛乃神

人皇二十

雄略天皇

神后み

娘を

帝を

天皇は后

西渡氏と

也

也



哥麻呂筆





女織  
糸手業  
草

十二終



哥磨筆

